

# 令和 4 年度環境保全型農業経営実態調査結果概要

---

令和 5 年 3 月

農林水産省

## 調査の概要

### 【調査目的】

環境保全型農業直接支払交付金制度の持続的かつ効果的な運用を図るため、環境保全型農業に取り組む農業者の経営実態を調査

### 【調査対象者】

令和3年度に環境保全型農業直接支払交付金を受給している農業者

### 【調査手法】

郵送又はインターネットによるアンケート調査

### 【回収数】

1,451件（有機農業 675、カバークロップ 398、堆肥の施用 324、リビングマルチ 6、草生栽培 9、不耕起播種 2、長期中干し 14、秋耕 23）

### 【調査票データの処理】

調査票データには一部外れ値とみられるデータが含まれていることから、以下の対応を行っている。

各サンプルについて総作業時間を取組面積で除し、面積あたり作業時間（現在）（時間/10a）を算定。取組別・作物区分別に平均値と標準偏差( $\sigma$ )を算定し、その後トリム平均(データ上下の5%除去)をとることにより、極端な値が含まれる場合の影響を減じる処理を行い集計。 $\pm 3\sigma$ を超える値について、外れ値として特定しデータ確認。  
なお、未回答項目は空欄とし、計算の対象外とした。

### 【注意事項】

※本調査は環境保全型農業直接支払交付金に取り組む農業者にアンケートを行った結果であり、この結果をそのまま交付金の単価とするものではありません。

# 環境保全型農業に対する農業者の経営実態調査の概要（つづき）

## 【環境保全型農業の実施に伴う経費の状況の調査項目】

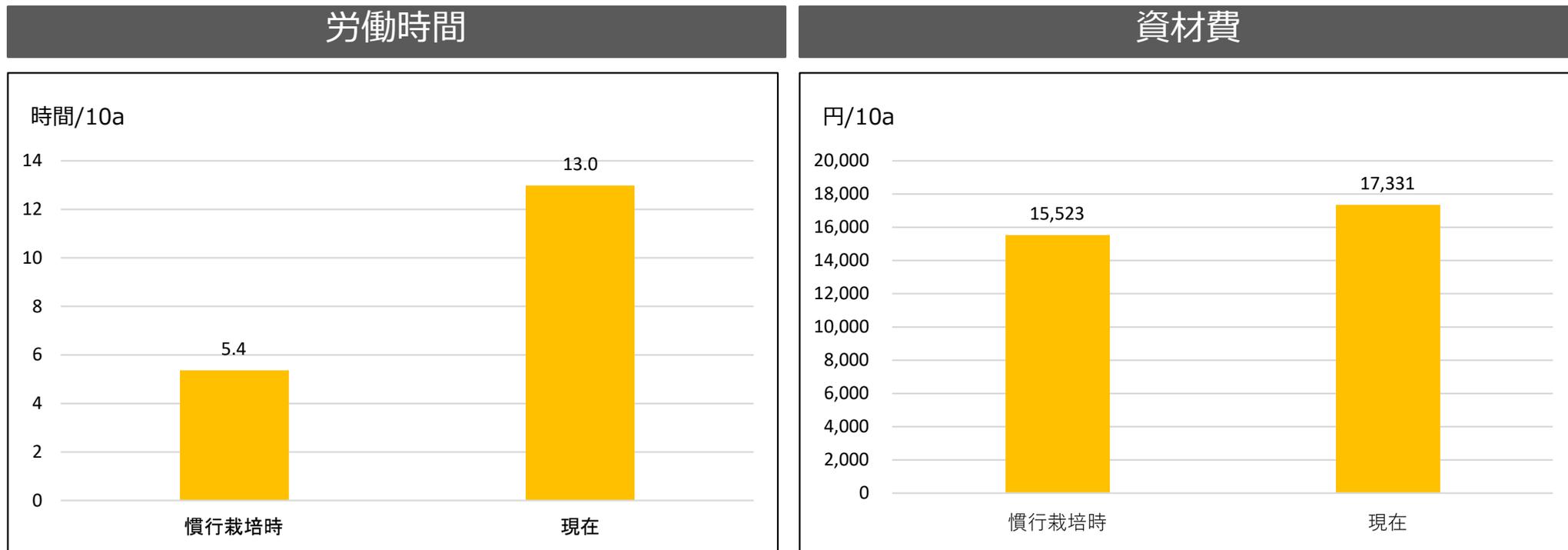
調査事項		回答項目案
労働時間	環境保全型農業の労働時間	除草時間、病害虫防除作業時間、堆肥散布時間、緑肥播種時間 等の実数値
	慣行栽培時の労働時間	農薬散布時間、肥料散布時間 等の実数値
	環境保全型農業の開始当初と比較した労働時間の変化	開始5年後時点での増減率、開始10年後時点での増減率
資材費	取組資材費	堆肥購入費、緑肥種子購入費、病害虫防除資材購入費 等の実数値
	不要となった資材費	化学農薬購入費、化学肥料購入費 等の実数値
	環境保全型農業の開始当初と比較した資材費の変化（開始5年後・10年後時点）	開始5年後時点での増減率、開始10年後時点での増減率
	その他取組に必要な費用	燃料費、利水費 等の実数値
	その他不要となった費用	燃料費、利水費 等の実数値
	環境保全型農業の開始当初と比較したその他費用の変化（開始5年後・10年後時点）	開始5年後時点での増減率、開始10年後時点での増減率

※経費の状況の調査対象取組：有機農業、堆肥の施用、カバークロップ、リビングマルチ、草生栽培、不耕起播種、長期中干し、秋耕

# 1.経費に関する集計結果（有機農業）

- 有機農業の取組を行う者の労働時間・資材費の状況は以下のとおりであった。
- 慣行栽培時と有機農業の取組（現在）で比べると、労働時間は約2.4倍となっている。

N = 675



## ○経費の状況

慣行栽培時 23,756円 = 労働費 8,233円(5.4×1,536円) + 資材費 15,523円

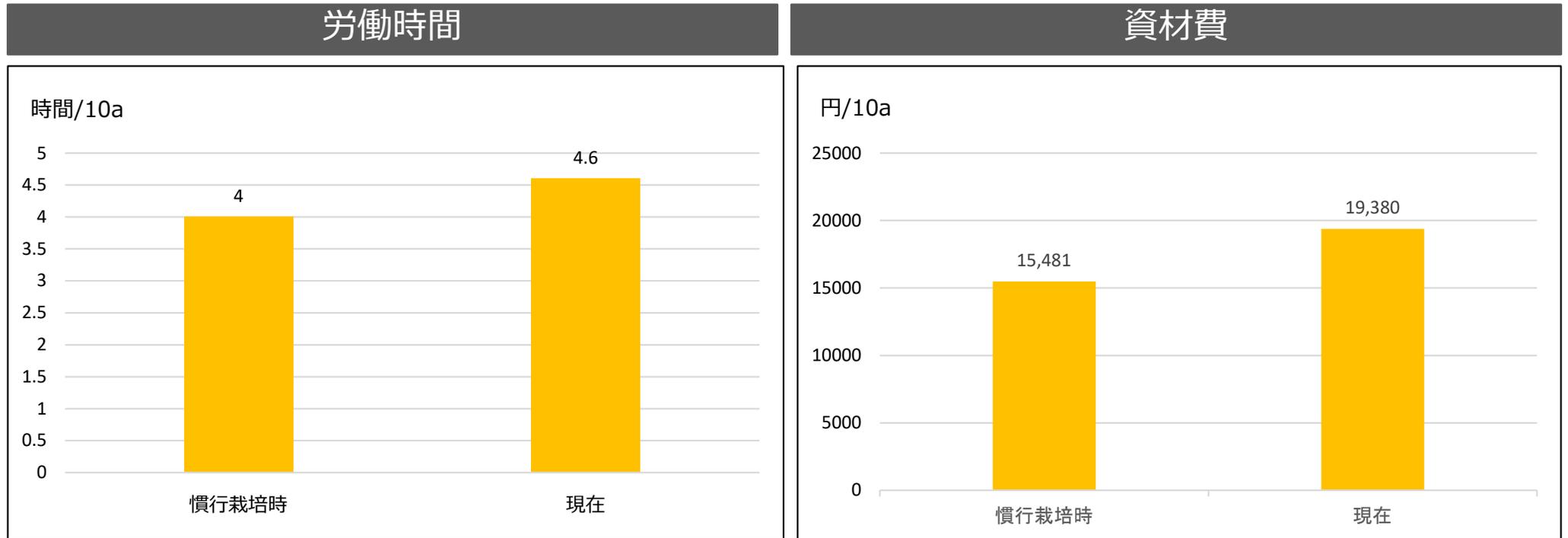
取組時 37,284円 = 労働費19,953円(13.0×1,536円) + 資材費 17,331円

令和2年度生産費統計より  
10a当たり時間労働費を算出

# 1.経費に関する集計結果（カバークロップ）

- カバークロップの取組を行う者の労働時間・資材費の状況は以下のとおりであった。
- 慣行栽培時とカバークロップ取組（現在）で比べると、労働時間は約1.2倍、資材費は約1.3倍増加している。

N = 398



※取組に直接関係のないその他資材費は除き、種子代は別途、メーカーに聞き取りを行った実勢価格に代えている。

## ○経費の状況

慣行栽培時 21,625円 = 労働費6,144円(4.0×1,536円) + 資材費 15,481円

取組時 26,446円 = 労働費7,066円(4.6×1,536円) + 資材費 19,380円

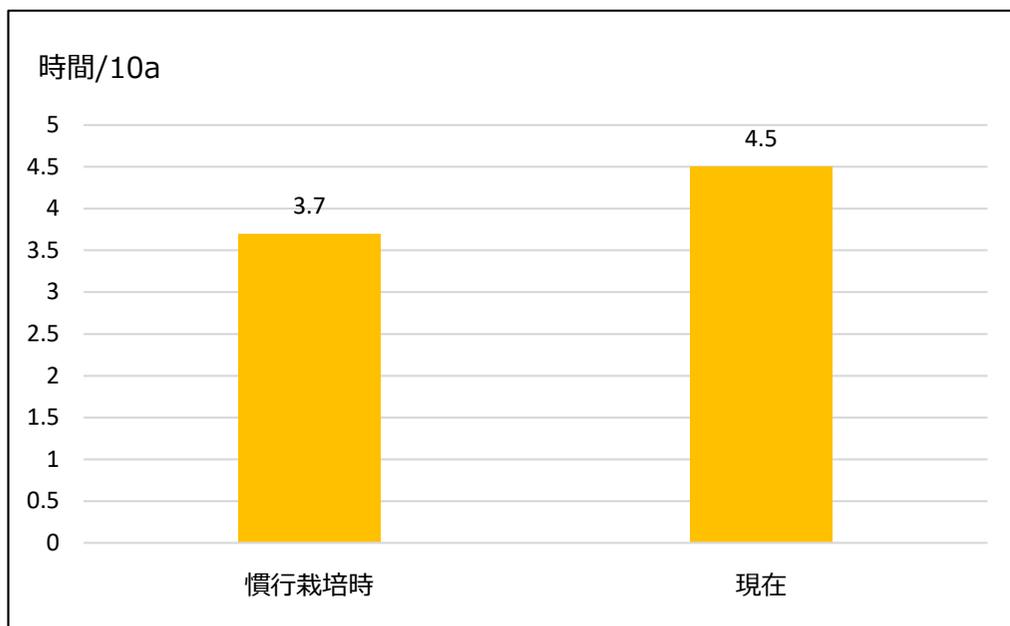
令和2年度生産費統計より  
10a当たり時間労働費を算出

# 1.経費に関する集計結果（堆肥の施用）

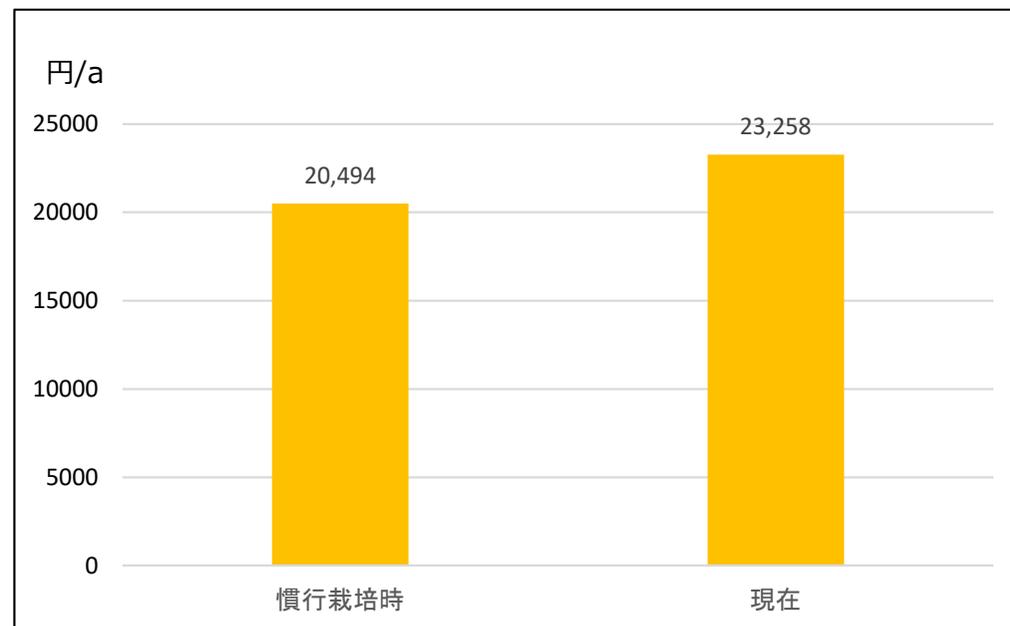
- 堆肥の施用の取組を行う者の労働時間・資材費の状況は以下のとおりであった。
- 慣行栽培時と堆肥の施用の取組（現在）で比べると、労働時間は約1.2倍、資材費は約1.1倍となっている。

N = 324

## 労働時間



## 資材費



※取組に直接関係のない資材費は除いている。

### ○経費の状況

慣行栽培時 26,177円 = 労働費5,683円(3.7×1,536円) + 資材費 20,494円

取組時 30,170円 = 労働費6,912円(4.5×1,536円) + 資材費 23,258円

令和2年度生産費統計より  
10a当たり時間労働費を算出

## 2.収入に関する集計結果（全体集計）

- 単収・販売価格・収入（単収×販売価格）について、取組別に取り組を行っている現在と慣行栽培時を比較した結果は以下のとおりであった。
- 有機農業の取組では、単収は慣行栽培時に比べて約9割となる一方、販売価格は約1.6倍となり、収入は約1.4倍となっている。

	単収（現在÷慣行栽培時）		販売価格（現在÷慣行栽培時）		収入（単収価格×販売価格）
	平均値	算定N数	平均値	算定N数	平均値
有機農業	86%	319	162%	313	1.39
カバークロップ	96%	285	95%	280	0.91
堆肥の施用	97%	214	98%	206	0.95

※1 算定N数はトリム前の値（平均値計算にはここから上下一定数を除いたサンプルを使用）

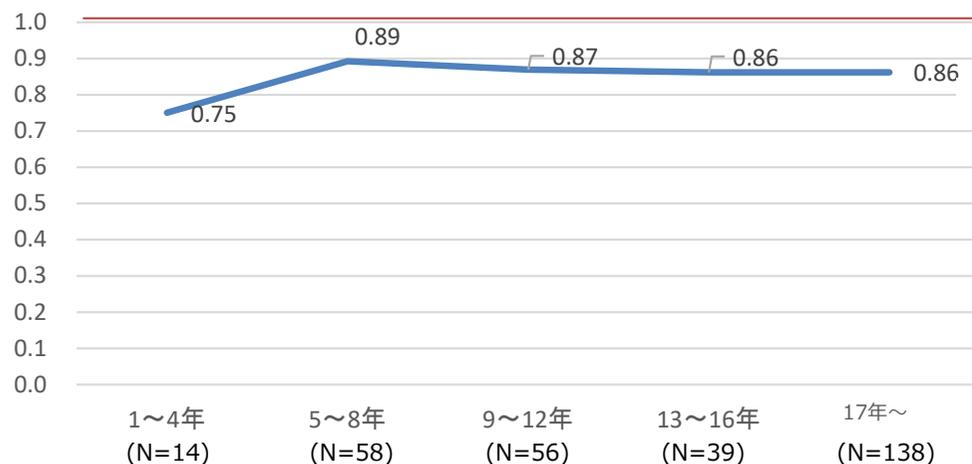
※2 その他の取組はサンプル数が少ないため集計していない。

## 2.収入に関する集計結果（有機農業）

- 有機農業の取組について、単収と収入の取組継続年数別変化は以下のとおりであった。
- 取組1～4年目の単収は、慣行栽培時と比べて75%と低いが、5年目以降は約9割となっている。
- 取組年数による収入は、
  - ・ 取組1～4年目では慣行栽培時に比べて、販売価格は上昇するものの、単収が低いことから約1.2倍
  - ・ 取組5年目以降では慣行栽培時に比べて、販売価格が上昇するとともに、単収も1割程度の減少にとどまることから約1.4倍となっている。

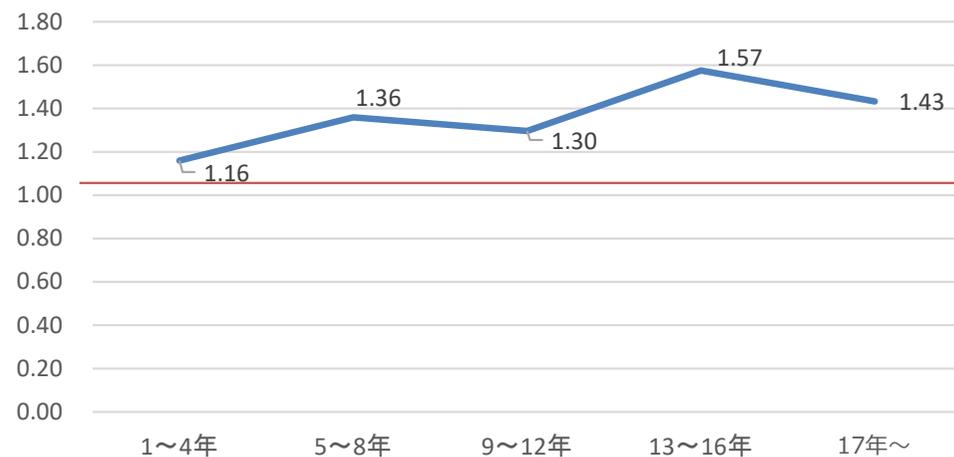
### 【有機農業】

○単収の変化（取組継続年数ごとの単収/慣行栽培時単収）（N=318）



○収入の変化

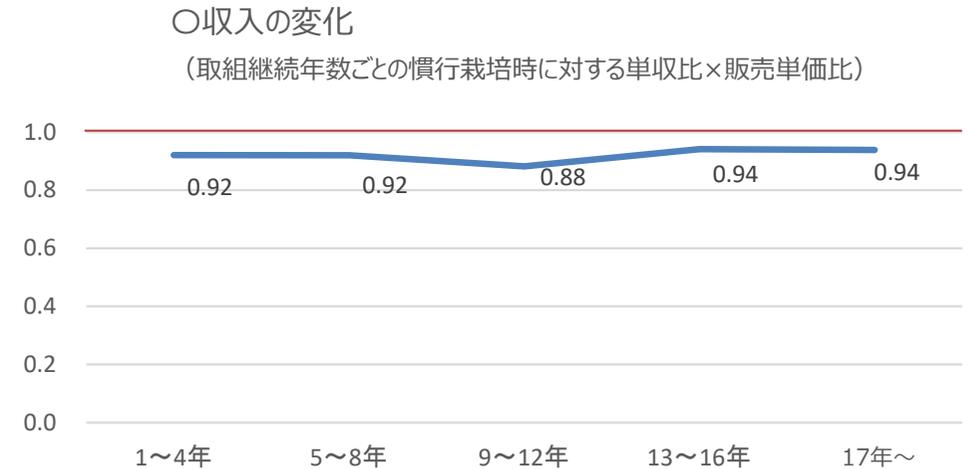
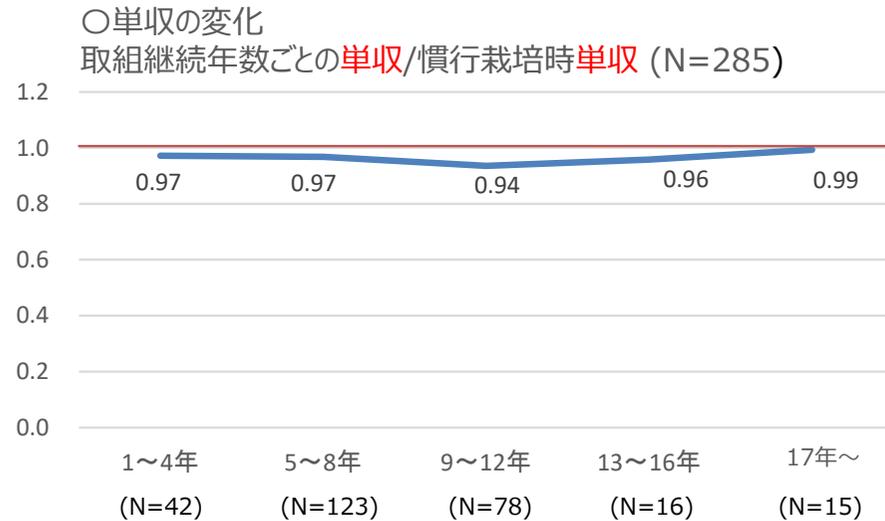
（取組継続年数ごとの慣行栽培時に対する単収比×販売単価比）



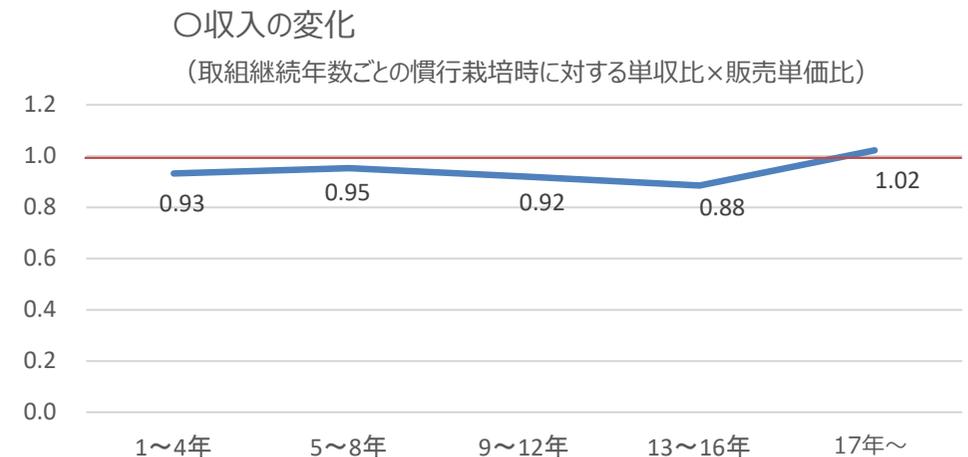
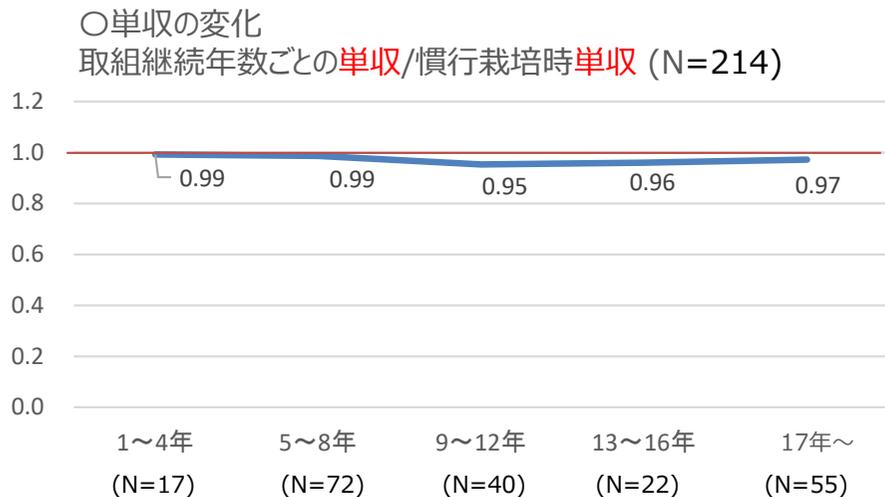
## 2.収入に関する集計結果（カバークロップ・堆肥）

- カバークロップおよび堆肥の施用の取組について、単収と収入の取組継続年数別変化は以下のとおりであった。
- カバークロップおよび堆肥の施用では、単収、収入ともに取組継続年数に応じて、大きな変化はみられなかった。

### 【カバークロップ】



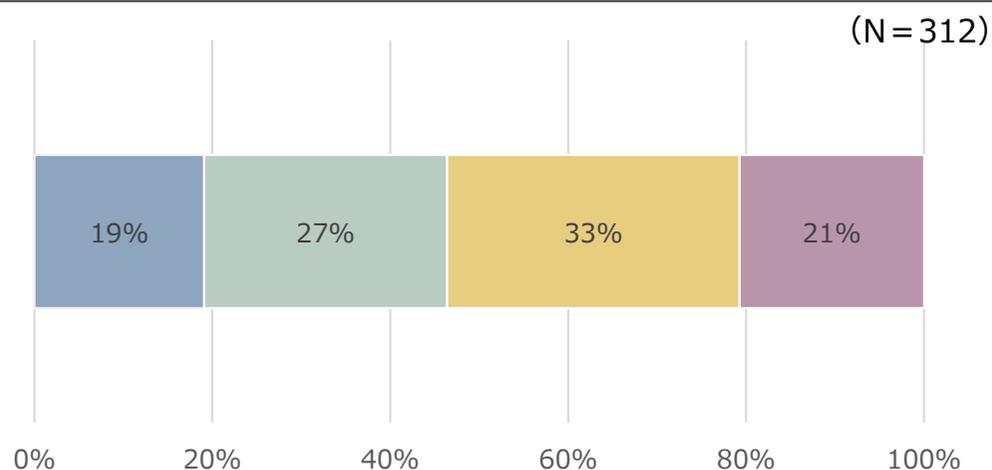
### 【堆肥の施用】



### 3.販売に関する集計結果（有機農業の販売価格）

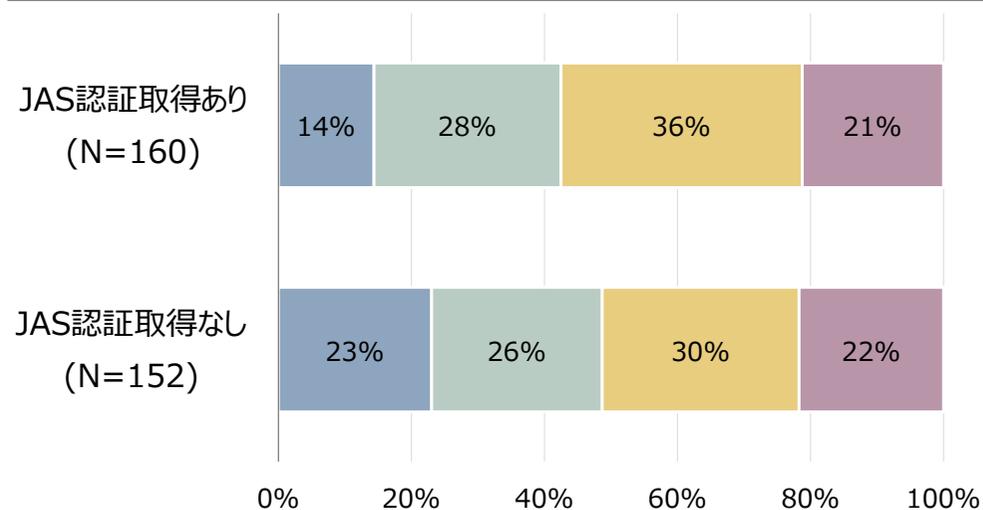
- 有機農業の取組を行う農業者の慣行栽培時に対する販売価格の変動状況は以下のとおりであった。
- 約8割が慣行栽培時に比べて、販売価格が増加している。
- 有機JAS認証取得の有無による販売単価の違いについては、「販売価格が低下・変動なし」の割合が取得ありが約1割、なしが約2割となったが、全体的には大きな違いはなかった。

#### 有機農業の取組による販売単価の違い



- 販売価格低下/変動なし (1倍以下)
- 販売価格増加 (1.5倍～2倍以下)

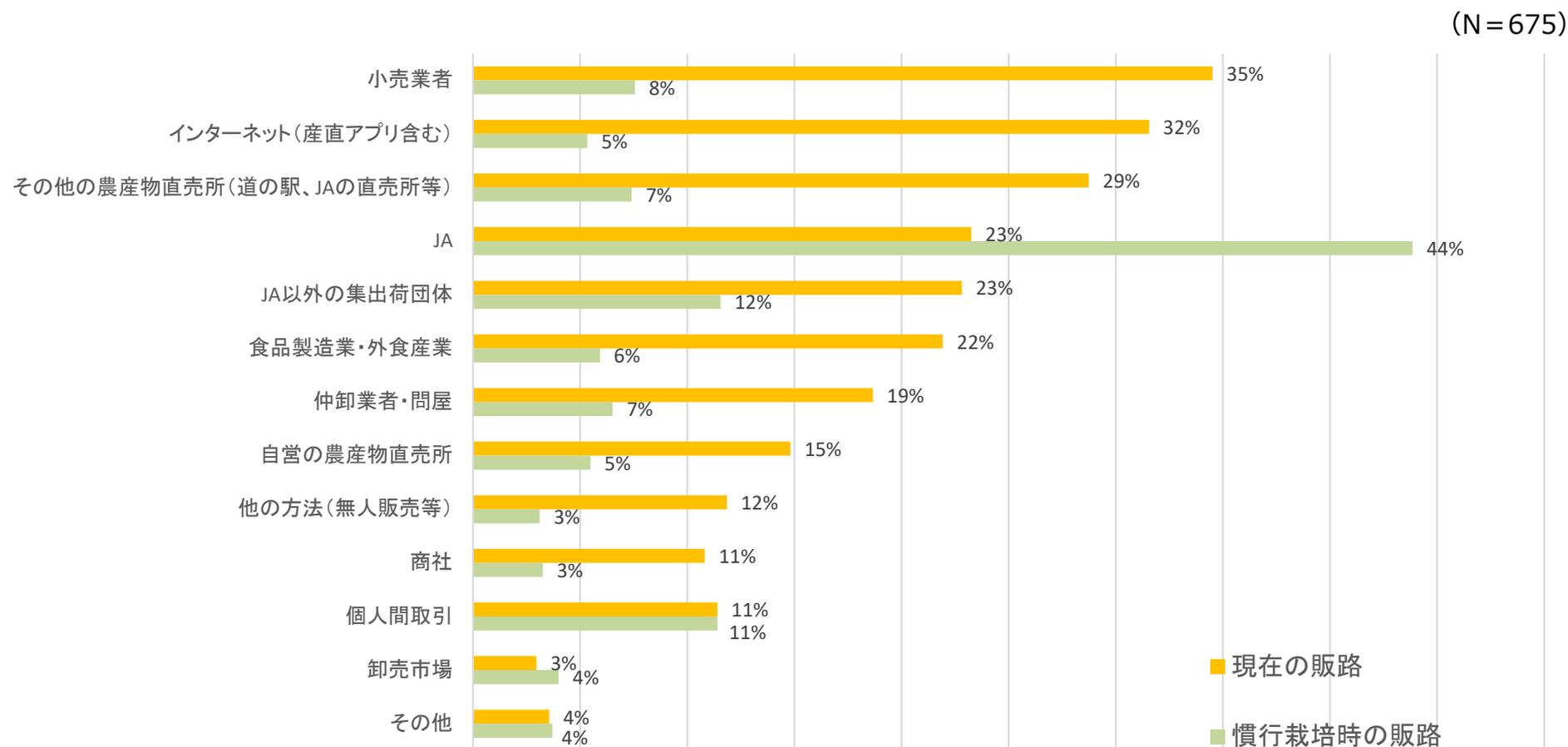
#### 認証取得有無による販売単価の違い



- 販売価格増加 (1倍～1.5倍以下)
- 販売価格増加 (2倍よりも増加)

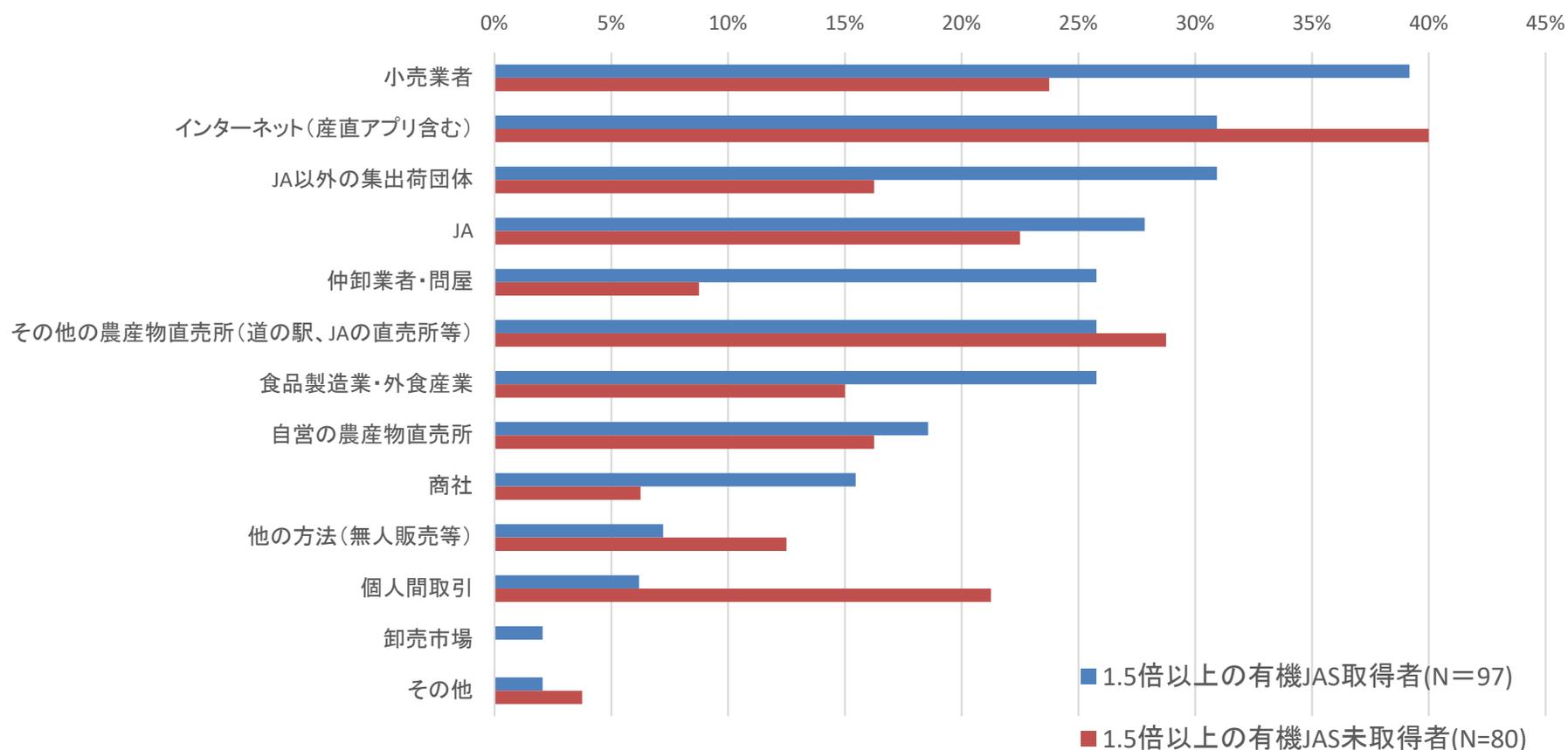
### 3.販売に関する集計結果（有機農業の販路①）

- 有機農業の取組を行う農業者の現在と慣行栽培時の販路は以下のとおりであった。
- 現在の販路としては、「小売業者」が約4割と最多で、次いでインターネットや農産物直売所等を利用した直接販売が多くなっている。
- 慣行栽培時では4割強と最も多かった「JA」は、現在の販路では約半分となっている。



### 3.販路に関する集計結果（有機農業の販路②）

- 有機農業の取組を行う農業者のうち、慣行栽培時と比較して販売価格が1.5倍以上と回答した者について、有機JAS取得・未取得に分類し販売先を組替集計した。
- 有機JAS取得者では、未取得者に比べて、小売業者や卸などの流通事業者へ販売し、慣行栽培時に比べて収入を向上させている。
- 一方、有機JAS未取得者では、インターネット経由、農産物直売所、個人間取引など消費者への直接販売により慣行栽培時に比べて収入を向上させている。



### 3.販路に関する集計結果（カバークロープ・堆肥）

- カバークロープ及び堆肥の施用の取組により生産された主作物の販路は、慣行栽培時と現在の販路ともにJAが最多で、全体の販路の構成にも違いがなかった。

N=722（カバークロープ 398、堆肥の施用 324）

